

貞観の大噴火をめぐって

貞観の大噴火は、富士山の北面、甲斐国側に起こった激甚災害で、その際に流出した溶岩流が青木ヶ原丸尾溶岩です。貞観の大噴火およびこの溶岩に関する、文献・自然・考古・民俗各分野の研究成果を紹介します。

■基調講演「文献からみた貞観噴火」

大隅 清陽 氏（山梨大学大学院教育学研究科教授）

■報告1 「古地磁気からわかる富士火山の歴史時代噴火」

馬場 章 氏（山梨県富士山科学研究所火山防災研究部研究員）

■報告2 「富士山の火山活動と考古資料～青木ヶ原丸尾溶岩を中心に～」

新津 健 氏（元 山梨県埋蔵文化財センター所長）

■報告3 「聖域としての富士山溶岩洞穴」

紙谷 威廣 氏（元 東京立正短期大学教授）

■パネルディスカッション

討論司会：萩原 三雄 氏（山梨県富士山総合学術調査研究委員会委員長・山梨県立考古博物館長）

○日時 2019年3月2日（土）
13:30～17:00
（受付開始 13:00）

○場所 鳴沢村総合センター
（南都留郡鳴沢村1451-21）
TEL:0555-85-3300

○主催 山梨県立富士山世界遺産センター
鳴沢村教育委員会

○その他 入場無料

○お問い合わせ
山梨県立富士山世界遺産センター
調査研究スタッフ
富士河口湖町船津6663-1
TEL:0555-72-2314
FAX:0555-72-2337



※ 河口湖方面からお越しの方は、「結の駅」前を通過した次の信号を右折して、すぐに坂道の上ってください。